



TITLE:

和歌山県田辺湾にムシフグが漂着

AUTHOR(S):

中坊, 徹次; 久保田, 信; 東海林, 明; 田名瀬, 英明

CITATION:

中坊, 徹次 ...[et al]. 和歌山県田辺湾にムシフグが漂着. 漂着物学会誌
2012, 10: 43-44

ISSUE DATE:

2012

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179177>

RIGHT:

© 2012 漂着物学会

中坊 徹次¹・久保田 信²・東海林 明³・田名瀬英明⁴：和歌山県田辺湾にムシフグが漂着
Tetsuji NAKABO¹, Shin KUBOTA², Akira TOKAIRIN^{1,3} and Hidetomo TANASE⁴: *Takifugu exascurus* stranded on the beach of Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

ムシフグ *Takifugu exascurus* はフグ類の中でもその斑紋が独特であり、本州中部の日本海側、神奈川県付近の太平洋沿岸、九州西岸に限られている(中坊編 2000)。今回、和歌山県田辺湾に面した京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所“北浜”に、2012年5月10日、ムシフグと考えられる1個体が死亡漂着したので報告する。和歌山県沿岸では益田他(1975)で白浜からの記録がある。

腐臭が少し匂う標準体長105.4 mmの本個体は、発見後すぐに写真撮影を行い(図1)、ホルマリン固定標本とした(京都大学総合博物館保管魚類標本として登録：FAKU 99731)。この個体は背鰭が黒っぽく、臀鰭は白、尾鰭は全体が黒く、下縁が白い。グラバー図譜 第3巻(グラバー図譜編集委員会編 1974)に「むしふぐ *Spheroides exacurus*」として掲載されている図は、今回の報告の個体とほぼ同じ斑紋と背鰭、臀鰭、尾鰭の色をしており、記述には「体色斑紋等に疑問は残るがムシフグらしい」と記されている。ところが、益田他(1975)の示しているムシフグは、背鰭、臀鰭、尾鰭が黄色い。この写真は益田他編(1984)にも掲載されている。一方、*Takifugu exascurus* の原記載(Jordan and Snyder, 1901)には「背鰭はむらのある暗色、尾鰭は鰭条の上に暗色斑が散在して網目状」とある。



図1 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に2012年5月10日に死亡漂着したムシフグ。

ムシフグは、鰭における色彩が一定していない。体の虫食い模様については、複雑で不規則なので、個体によって同じなのか異なっているのか、比べるのが難しい。さらに、採集記録が日本列島に限られて、散発的で少ない以上を考えると、ムシフグ自体がトラフグ属のなんらかの種間交雑個体ということも考えられる。後藤(2002)は遠州灘産の自然交雑個体(トラフグとマフグの雑種?)、山田他(2007)はシマフグとトラフグの自然交雑個体を報告しているように、トラフグ属には自然交雑個体がしばしばみられる。藤田(1967)がヒガンフグ、コモンフグ、トラフグ、シマフグ、サバフグ、クサフグ、キタマクラを用いたフグ科魚類の種間と属間の10の組み合わせでの人為交雑を試み、受精率や孵化率がそろって高い場合(72-98%)が大半であったことを報告している。このような交雑実験から考えると、フグ科魚類の場合は自然界での交雑を考慮して採集された個体の同定をしなければならない。ムシフグ *T. exascurus* については存在自体を問い直す必要があるかもしれない。今後の研究を待ちたい。

引用文献

- 藤田矢郎 1967. フグ科魚類数種の種間および属間交雑(予報). ミチューリン生物学研究, 3(1): 5-10.
後藤裕康 2002. 珍フグ2題, はまな, (491): 3.
グラバー図譜編集委員会編 1974. グラバー図譜 第3巻. 長崎大学水産学部, 長崎, 407 pp.
Jordan, D.S. and J.O. Snyder. 1901. A review of the gymnodont fishes of Japan. Proc. U.S. Natn. Mus., 24: 229-264.
益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫 1975. 魚類図鑑, 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京, 379pp.
益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編 1984. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京, xx+451pp.,

漂着物学会誌 第10巻 2012

370pls.

中坊徹次編 2000：日本産魚類検索全種の同定，第二版，1748 pp. 東海大学出版会，東京.

山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 1262 pp. 東海大学出版会，東京.

(Received Sept. 5, 2012; accepted Sept. 25, 2012)

¹ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館

¹ The Kyoto University Museum, Kyoto University, Kyoto 606-8501, Japan

² 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

² Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama-cho 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

³ 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科

³ Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Kyoto 606-8502, Japan

⁴ 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676

⁴ Shirahama-cho 676, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan